

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 愛知医科大学
理事長 三宅 養三



愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	128人
--------	------

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	386人	24.0人	410.0人	看護補助者	15.0人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	12人	1.4人	13.4人	理学療法士	15.0人	臨床検査技師	70.0人
薬剤師	66人	2.7人	68.7人	作業療法士	7.0人	衛生検査技師	0.0人
保健師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	3.0人	その他	0.0人
助産師	20人	1.4人	21.4人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看護師	819人	10.3人	829.3人	臨床工学士	12.0人	医療社会事業従事者	9.0人
准看護師	11人	0.0人	11.0人	栄養士	0.0人	その他の技術員	39.0人
歯科衛生士	3人	0.8人	3.8人	歯科技工士	2.0人	事務職員	66.0人
管理栄養士	12人	0.0人	12.0人	診療放射線技師	45.0人	その他の職員	20.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	710.7人	8.7人	719.4人
1日当たりの平均外来患者数	1,936.1人	69.2人	2,005.3人
1日当たりの平均調剤数			3,003.0剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	84 人	・膿疱性乾癬	6 人
・多発性硬化症	84 人	・広範脊柱管狭窄症	1 人
・重症筋無力症	160 人	・原発性胆汁性肝硬変	2 人
・全身性エリテマトーデス	949 人	・重症急性膵炎	20 人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	61 人
・再生不良性貧血	45 人	・混合性結合組織病	89 人
・サルコイドーシス	516 人	・原発性免疫不全症候群	5 人
・筋萎縮性側索硬化症	17 人	・特発性間質性肺炎	43 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	437 人	・網膜色素変性症	58 人
・特発性血小板減少性紫斑病	201 人	・プリオン病	1 人
・結節性動脈周囲炎	21 人	・肺動脈性肺高血圧症	5 人
・潰瘍性大腸炎	256 人	・神経線維腫症	45 人
・大動脈炎症候群	34 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・ビュルガー病	53 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・天疱瘡	45 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2 人
・脊髄小脳変性症	50 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	3 人
・クローン病	63 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	39 人
・悪性関節リウマチ	17 人	・脊髄性筋萎縮症	5 人
・パーキンソン病関連疾患	398 人	・球脊髄性筋萎縮症	7 人
・アミロイドーシス	51 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4 人
・後縦靭帯骨化症	150 人	・肥大型心筋症	82 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	1 人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	32 人	・ミトコンドリア病	12 人
・ウェゲナー肉芽腫症	281 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	3 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	16 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	6 人
・多系統萎縮症	5 人	・黄色靭帯骨化症	2 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害	41 人
		合計	4517 人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)の発症・進展における喫煙の影響に関する研究	米田政志	消化器内科	2,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 喫煙科学研究財団 <input type="checkbox"/> 委
2	機能性ディスぺプシアに対する六君子湯の有効性・安全性の科学的エビデンスを創出するための二重盲検無作為化プラセボ対照比較試験	春日井邦夫	消化器内科	1,600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 委
3	剖検率に影響を与える諸因子に関する研究	春日井邦夫	消化器内科	受領なし 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 委
4	点光源照明を利用した内視鏡画像のための3次元形状復元手法の開発	春日井邦夫	消化器内科	受領なし 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興会 <input type="checkbox"/> 委
5	『顆粒球吸着療法至適用法決定試験』〜クローン病を対象としたアダカム週1回法と週2回法の無作為割付比較試験〜	佐々木誠人	消化器内科	受領なし 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 委
6	厚生労働省科学研究費 難治性疾患克服事業 びまん性肺疾患調査研究班「プール試料を用いたサルコイドーシスのGWAS」	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
7	厚生労働省科学研究費 難治性疾患克服事業 びまん性肺疾患調査研究班「自己免疫性肺胞蛋白症の臨床経過と血清抗GM-CSF抗体濃度との関連および特異例における剖検肺の病理学的検討」	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	700,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
8	基盤研究(C)「サルコイドーシスにおけるカテプシンの意義に関する研究」	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科	600,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 日本学術振興 <input type="checkbox"/> 委
9	進行再発肺腺癌におけるゲフィチニブとエルロチニブのランダム化第Ⅲ相試験	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科	630,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 西日本がん研究機 <input type="checkbox"/> 委
10	非小細胞肺癌患者の体重およびQOL等に関する臨床研究	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科	1,260,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 西日本がん研究機 <input type="checkbox"/> 委
11	アミロイドーシスにおける凝固線溶系の異常	今井裕一	腎臓・リウマチ膠原病内	1,500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
12	小児急性白血病における微小残存病変測定法の確立と臨床応用に関する研究	鶴澤正仁	小児科	5,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 文科省 <input type="checkbox"/> 委
13	小児造血器腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	鶴澤正仁	小児科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
14	難治性小児がんに対する組織的・包括的取り組みに基づく臨床的特性に関する分子情報の体系的解析とその知見を活用した診断・治療法の開発	鶴澤正仁	小児科	3,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
15	MRD定量に基づく層別化を取り入れた小児急性リンパ性白血病治療研究	鶴澤正仁	小児科	4,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 がんの子供を守る会 <input type="checkbox"/> 委
16	AML-05プロトコル治療における骨髄再構築過程の多次元フローサイトメトリーを用いた解析	鶴澤正仁	小児科	8,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 がんの子供を守る会 <input type="checkbox"/> 委
17	磁気ナビゲーションシステムを用いた乳癌画像診断法の確立-MRIとUS画像の融合-	中野正吾	乳腺内分泌外科	4,030,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 委
18	難治性疾患克服事業 難治性血管炎に関する調査研究	太田 敬	血管外科	900,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
19	脊髄障害性疼痛症候群の実体の把握と病態の解明に関する研究	高安正和	脳神経外科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
20	脳脊髄減少症の診断・治療の確立に関する研究	高安正和	脳神経外科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
21	閉経後のエストロゲン補充療法に併用する黄体ホルモン製剤が、脂質・血管内皮機能・血管炎症マーカーに与える影響	二井章太	産科婦人科	450,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 愛知医科大学同窓会 <input type="checkbox"/> 委
22	ガドリニウム系MRI造影剤が内耳に及ぼす直接的影響に関する研究	谷川徹	耳鼻咽喉科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 市原財団 <input type="checkbox"/> 委
23	救急救命士の処置拡大について	野口宏	救命救急科	1,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
24	睡眠医療における医療機関連携ガイドラインの有効性検証に関する研究	塩見利明	睡眠科	500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 市原財団 <input type="checkbox"/> 委
25	持続陽圧呼吸(CPAP)療法施行下での肥満を伴う閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)患者の東洋医学的症候の特徴	塩見利明	睡眠科	800,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
26	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	高本滋	輸血部	7,000,000 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
27	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	加藤栄史	輸血部	受領なし 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
28	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	宇留間元昭	輸血部	受領なし 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委
29	輸血副作用把握体制の確立 -特に免疫学的副作用の実態把握とその対応-	安藤高宣	輸血部	受領なし 円	<input checked="" type="checkbox"/> 補 厚生労働省 <input type="checkbox"/> 委

30	脊髄障害性疼痛症候群の実態の把握と病態の解明に関する研究	牛田享宏	学際的痛みセンター	19,500,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	厚生労働省
31	関節不動化による患肢廃用モデル動物における神経系の機能変化に関する研究	牛田享宏	学際的痛みセンター	910,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
32	難治性慢性疼痛の実態と病態の解明に関する研究	牛田享宏	学際的痛みセンター	15,773,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	厚生労働省
33	Cold Allodyniaにおける温度セルセンサーの機能変化メカニズムの解析	新井健一	学際的痛みセンター	2,990,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
34	コンプレキシンII遺伝子欠損マウスを用いたストレス脆弱性メカニズムの研究	西原真理	学際的痛みセンター	1,690,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
35	病的疼痛行動を示す関節拘縮モデル動物の疼痛情報処理神経ネットワークの解析	牛田享宏	学際的痛みセンター	4,680,000 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
36	抗原特異的細胞傷害性T細胞(CTL)の開鎖系調整キットの開発とその臨床応用	吉川和宏	細胞治療センター	3,858,416 円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	財)科学技術交流財

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Neurosci Lett: 46(3), 211-5, 2010	Genetic variations in the serotonin transporter gene-linked polymorphic region influence attraction for a favorite person and the associated interactions between the central nervous and immune systems.	春日井邦夫	消化器内科
2	International Conference on Pattern Recognition: 1650-53.	Extending Fast Marching Method under Point Light Source Illumination and Perspective Projection.	春日井邦夫	消化器内科
3	Lecture Notes in Computer Science: 62, 81-8, 2010	Recovering 3-D Shape Based on Light Fall-off Stereo under Point Light Source Illumination and Perspective	春日井邦夫	消化器内科
4	Picture Coding and Image : 119-20, 2010	Shape From Endoscope Images Using Inverse Square Law for Illuminance.	春日井邦夫	消化器内科
5	Aliment Pharmacol Ther. .	Randomised clinical trial: a multicentre, double-blind, placebo-controlled study on the efficacy and safety of rabeprazole 5 mg or 10 mg once daily in patients with non-erosive reflux disease.	佐々木誠人	消化器内科
6	J Clin Biochem Nutr.	Changes in 12-Year First-Line Eradication Rate of Helicobacter pylori Based on Triple Therapy with Proton Pump Inhibitor, Amoxicillin and Clarithromycin.	佐々木誠人	消化器内科
7	Am J Pathol.	Role of ES Cell-Expressed Ras, ERas, in Tumorigenicity of Gastric Cancer.	佐々木誠人	消化器内科
8	Methods Find Exp Clin Pharmacol	The effectiveness of packed therapy with three drugs in Helicobacter pylori eradication in Japan.	佐々木誠人	消化器内科
9	J Clin Biochem Nutr	Involvement of oxidative stress and mucosal addressin cell adhesion molecule-1 (MAdCAM-1) in inflammatory bowel disease.	佐々木誠人	消化器内科
10	消化と吸収	オリゴ糖生成酵素による消化吸収を介した代謝制御—メタボリック症候群の治療・予防へ応用—	佐々木誠人	消化器内科
11	Clin J Gastroenterol	Intussusception in a child caused by capillary hemangioma of the colon.	内海 恵子	消化器内科
12	J Clin Biochem Nutr.	Rebamipide suppresses TLR-TBK1 signaling pathway resulting in regulating IRF3/7 and IFN- α/β reduction.	小笠原尚高	消化器内科
13	Digestive Endoscopy	Endoscopic submucosal dissection with sheath-assisted counter traction for early gastric cancers.	土方康孝	消化器内科
14	Clin J Gastroenterol	Intussusception in a child caused by capillary hemangioma of the colon	増井竜太	消化器内科
15	Gastroenterology Research	Small, Depressed-Type Early Colon Cancer Invading Shallow Submucosal Layer With Extensive Lymph Node Metastasis: A Case Report.	川村百合加	消化器内科
16	Am J Respir Crit Care Med	Inhaled Granulocyte/Macrophage-Colony Stimulating Factor as Therapy of Pulmonary Alveolar Proteinosis	山口悦郎	呼吸器・アレルギー内科
17	気管支学	当院における仮想気管支鏡像をナビゲーションとした末梢肺野病変の診断経験	馬場研二	呼吸器・アレルギー内科
18	Int Arch Allergy Immunology	Deficiency of the SHAP-hyaluronan Complex Enhances Airway Hyperresponsiveness in a Murine Model of Asthma	馬場研二	呼吸器・アレルギー内科
19	Lung cancer	Second-line weekly paclitaxel in resistant or relapsed non-small cell lung cancer treated with docetaxel and carboplatin: A multi-center phase II study	馬場研二	呼吸器・アレルギー内科
20	Peptide	Ghrelin and obestatin promote the allergic action in rat peritoneal mast cells as basic secretagogues	馬場研二	呼吸器・アレルギー内科
21	Internal Medicine	Malignant pleural effusion from lung adenocarcinoma treated by gefitinib	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
22	Oncology Reports	Cytokeratins Negatively Regulate Invasive Potential in Lung Cancer Cell Lines	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
23	Clin Cancer Res	Long exposure of environmental tobacco smoke associated with activating epidermal growth factor receptor mutations in never-smokers with non-small cell lung cancer	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
24	J Thoracic Oncol	A phase I study of amrubicin (AMR) and fixed-dose of irinotecan (CPT-11) in relapsed small cell lung cancer (SCLC) -Japan Multinational Trial Organization (JMTO) Lung03	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
25	J Thoracic Oncol	Gender, histology, and time of diagnosis are important factors for prognosis: analysis of 1499 never-smokers with advanced non-small cell lung cancer in Japan	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
26	J Thoracic Oncol	Performance status and smoking status are independent favorable prognostic factors for survival in non-small cell lung cancer. A comprehensive analysis of 26,957 patients with NSCLC	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
27	Annals Oncol	Is response rate improved obtained by molecular targeted agents related to survival benefit in the phase III trials of advanced cancer?	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科
28	J Bronchol Intervent Pulmonol	A feasibility and efficacy study on bronchoscopy with a virtual navigation system	久保昭仁	呼吸器・アレルギー内科

29	アレルギー	気管支喘息及び鼻炎における血清総IgE値及び末梢血好酸球数の検討	高橋歩	呼吸器・アレルギー内科
30	Allergy & Asthma Proc	The role of atopy in the clinical course of pulmonary sarcoidosis in the Japanese population	高橋歩	呼吸器・アレルギー内科
31	BMC Med Genet	Genetic variants in mannose receptor gene (MRC1) confer susceptibility to increased risk of sarcoidosis	高橋歩	呼吸器・アレルギー内科
32	ホルモンと臨床 内分泌クリニカル・カンファランス51 2010;58:46-52.	多彩な腫瘍の合併を認めた多発性内分泌腺腫症1型の症例.	橋詰万里子	内分泌・代謝・糖尿病内科
33	Pathology International 2011;61:13-18.	Histologic study of age-related change in the posterior pituitary gland focusing on abnormal deposition of tau protein	Hashizume M	内分泌・代謝・糖尿病内科
34	J Neurosci Res 2010;88(1):123-35	Dorfin ameliorates phenotypes in a transgenic mouse model of amyotrophic lateral sclerosis	Sone J	神経内科
35	運動障害 2010;20:1-7	多彩な神経筋症状と各種自己抗体を伴った重症筋無力症の1成人例	後藤啓五	神経内科・脳卒中C
36	Clin Exp Nephrol. 14: 474-478	A case of chronic kidney disease with thromboic microangiopathy in a hemaopoietic stem cell transplant recipient	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
37	Clin Exp Nephrol. 14: 598-601	Thrombotic thrombocytopenic purpura in a patient with rapidly progressive glomerulonephritis with both anti-glomerular basement membrane antibodies and myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibodies	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
38	Clin Exp Nephrol. 15: 171-174	Acute peritonitis due to Corynebacterium ulcerans in a patient receiving continuous ambulatory peritoneal dialysis: a case report and literature review	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
39	腎と透析 69: 455-459	Patient OnLineを用いた栄養状態と透析量の評価	今井 裕一	腎臓・リウマチ膠原病内科
40	日内会誌 99: 957-963	血液疾患で生じる急性腎不全	三浦直人	腎臓・リウマチ膠原病内科
41	Leuk Lymphoma 51:2112-2119, 2010	Energy metabolism of leukemia cells: glycolysis vs oxidative phosphorylation	三輪啓志	血液内科
42	J Med Case Reports 4: 219, 2010	Aortic thrombus in a patient with myeloproliferative thrombosis, successfully treated by pharmaceutical therapy: a case report	山本英督	血液内科
43	医学と薬学 63:193-199, 2010	播種性血管内凝固症候群	今村 明	血液内科
44	Epilepsy Behav 18:218-222,2010	Two forms of déjà vu experiences in patients with epilepsy	Kanemoto K	精神神経科
45	Epilepsy Behav 19:162-6,2010	Violence and postictal psychosis: a comparison of postictal psychosis, interictal psychosis, and postictal confusion	Kanemoto K	精神神経科
46	精神医学 52 :91-93,2010	Lamotrigineの使用により攻撃性が軽減した精神遅滞合併後頭葉てんかんの1例	大島智弘	精神神経科
47	精神医学 52 :61-64,2010	Dacrytic seizureと推定された1症例	加藤悦史	精神神経科
48	精神医学 52 :191-193,2010	失神・転倒を繰り返し、治療に難渋したレビー小体型認知症の2例	加藤悦史	精神神経科
49	精神科治療学 25 :1667-	肥満満足度アンケートからみた患者による副作用の主観	兼本浩祐	精神神経科
50	精神科治療学 25 :397-400,2010	電気けいれん療法後に錯語の産出が認められないことの意味について	松原桃代	精神神経科
51	Rinsho Ketsueki. 2010 eb;51(2):104-13.	Effectiveness of remission induction with high-dose cytarabine for relapsed or refractory pediatric acute leukemia.	鶴澤正仁	小児科
52	Br J Haematol. 2010 Jun;149(5):722-33.	Systematic review of the addition of vincristine plus steroid pulses in maintenance treatment for childhood acute lymphoblastic leukaemia - an individual patient data meta-analysis involving 5,659 children.	鶴澤正仁	小児科
53	Leukemia. 2010 Feb;24(2):335-44.	Long-term results of the Japanese Childhood Cancer and Leukemia Study Group studies 811, 841, 874 and 911 on childhood acute lymphoblastic leukemia.	鶴澤正仁	小児科
54	Pediatr Blood Cancer. 2010 Feb;54(2):212-5.	Retrospective analysis of non-anaplastic peripheral T-cell lymphoma in pediatric patients in Japan.Lymphoma Committee, Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group.	鶴澤正仁	小児科
55	Int J Hematol. 2009 Nov;90(4):492-500	A study of rasburicase for the management of hyperuricemia in pediatric patients with newly diagnosed hematologic malignancies at high risk for tumor lysis syndrome.	鶴澤正仁	小児科
56	Int J Hematol. 2009 Oct;90(3):370-3	.Detection of submicroscopic disease in the bone marrow and unaffected testis of a child with T-cell acute lymphoblastic leukemia who experienced "isolated" testicular relapse.	鶴澤正仁	小児科
57	Br J Haematol. 2009 May;145(3):376-88.	Beneficial and harmful effects of anthracyclines in the treatment of childhood acute lymphoblastic leukaemia: a systematic review and meta-analysis. Childhood Acute Lymphoblastic Leukaemia Collaborative Group (CALLOG).	鶴澤正仁	小児科
58	Clinical and experimental nephrology 2010.6;14(3):205-12	Enhanced expression of naofen in kidney of streptozotocin-induced diabetic rats: possible correlation to apoptosis of tubular epithelial cells.	黒川剛	消化器外科
59	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of	Effects of 1-O-hexyl-2,3,5-trimethylhydroquinone on carbon tetrachloride-induced hepatic cirrhosis in rats.	野浪敏明	消化器外科

60	Hepatogastroenterology 2011.1/2:58(105):143-6	Risk factors for surgical site infection after hepatectomy for hepatocellular carcinoma	有川 卓	消化器外科
61	脈管学50:35-40	脈管専門医にとってのバスキュラーラボ	太田 敬	血管外科
62	Vascular Lab 7(増刊):15-19	脈管専門医	太田 敬	血管外科
63	Vascular Lab17:2-9	脈管専門医の誕生と脈管診療の展望	太田 敬	血管外科
64	血管疾患を診る。治す 298-302	深部静脈血栓症をどう治療するか	太田 敬	血管外科
65	外科72:1077-1082	腹部大動脈瘤による出血	太田 敬	血管外科
66	脈管専門医のための臨床脈管学241-243	維持透析患者の重症下肢虚血	太田 敬	血管外科
67	CARDIAC PRACTICE21:35-42	PADをどう診るか—PADのベッドサイド診断	太田 敬	血管外科
68	脈管学50:651-655	腹部大動脈瘤ステントグラフト手術の初期・中期成績—術後瘤径変化の予測は可能か?	石橋宏之	血管外科
69	脈管学50:337-341	腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術—術中瘤内圧測定の臨床的意義	石橋宏之	血管外科
70	Cardiovasc Intervent Radiol 33:939-942	Intraoperative Sac Pressure Measurement During Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair	石橋宏之	血管外科
71	外科治療10:417-423	血管外科医が行う末梢動脈疾患の診療	石橋宏之	血管外科
72	血管疾患を診る。治す 235-237	下肢切断を決定する因子は何か	杉本郁夫	血管外科
73	Internal Angiology 29:55-60	Conservative treatment for patients with intermittent Claudication.	杉本郁夫	血管外科
74	CARDIAC PRACTICE21:137-	PADの病態と診断—PADのベッドサイド診断	杉本郁夫	血管外科
75	脈管学50:683-686	臨床症状と動脈閉塞所見からみた重症下肢虚血症例の検討	杉本郁夫	血管外科
76	Vasa39:94-97	A case of an infected abdominal aortic aneurysm caused by infectious spondylitis.	折本有貴	血管外科
77	J Cancer Res Clin Oncol. 2010	Evaluation of Oncotype DX Recurrence Score as a prognostic factor in Japanese women with estrogen receptor-positive, node-negative primary Stage I or IIA breast cancer.	Yorozuya K	乳腺内分泌外科
78	Breast Cancer. 2010	Intracystic invasive papillary carcinoma of the male breast with analyses of loss of heterozygosity on chromosome 16q.	Yoshida M	乳腺内分泌外科
79	Brain Res 1332:12-19, 2010	Oxidative stress activates STAT1 in basilar arteries after subarachnoid hemorrhage.	Osuka K	脳神経外科
80	J Neurotrauma 27:403-10, 2010	Taurine reduces inflammatory responses after spinal cord injury.	Osuka K	脳神経外科
81	脳外誌 19:518-525, 2010	脊椎インスツルメンテーション—脳神経外科医にとっての歴史と展望—	高安 正和	脳神経外科
82	脊椎外科 24: 83-85, 2010	脊髄損傷後の難治性疼痛に対する脊髄後根進入部破壊術の小経験	高安 正和	脳神経外科
83	脊椎脊髄 23:593-600, 2010	C1外側塊スクリュー・C2椎弓根スクリュー固定	高安 正和	脳神経外科
84	脊髄外科 24: 108-110, 2010	棘突起縦割片側進入法(spinous process hemi-splitting method: SPSHS)の有用性:Love法との比較	上甲真宏	脳神経外科
85	脳卒中 32:229-235, 2010	MRI BB法と造影CTを用いた頸部頸動脈狭窄症のブランク診断:二者の相関について	犬飼千景	脳神経外科
86	脊椎脊髄ジャーナル 23: 293-299, 2010	脊髄神経根診断3D—MRI neurography	犬飼千景	脳神経外科
87	脳神経外科 38: 251-257, 2010	頸椎神経根診断におけるcurved coronal MPR imagingの有用性	犬飼千景	脳神経外科
88	整形・災害外科 53巻5号 Page539-545(2010.04)	【インプラント感染 その予防と対策】インプラント感染の治療総論 セメントビーズによる人工関節術後感染の治療	大塚博巳	整形外科
89	Osteoporosis Japan 18巻2号 Page219-223(2010.04)	ヒト大腿骨頭における骨圧縮強度と二次元、三次元骨密度の相関について	佐藤崇二	整形外科
90	整形外科最小侵襲手術ジャーナル 55号 Page25-33(2010.05)	【肩の鏡視下手術の基本手技】外傷性肩関節前方不安定症に対する肩関節鏡視下手術 suture anchor法	岩堀裕介	整形外科
91	肩関節 34巻2号 Page535-537(2010.06)	肩関節鏡視下手術中の脳血流、脳波の検討 体位による比較	梶田幸宏	整形外科
92	東海骨軟部腫瘍 22巻 Page29-30(2010.06)	右示指軟部腫瘍の再発した1例	齋藤正敏	整形外科
93	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻4号 Page753-	人工股関節置換術後VTEに対する抗凝固薬の効果とDダイマー値への影響	廣瀬士朗	整形外科
94	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻4号 Page871-	Offset Repo-Tensorを用いたFlexion Balancing Instrumentsでの軟部組織バランスの評価	北本和督	整形外科
95	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻4号 Page921-	ベルテス病保存治療中に高度圧壊を生じ、内反回転骨切り術を施行した1例	澤田重之	整形外科
96	Arthritis—運動器疾患と炎症— 8巻2号 Page150-155(2010.08)	Skill Up 最新・手術手技講座(第17回) RA肘関節 鏡視下滑膜切除	岩堀裕介	整形外科
97	肩関節 34巻3号 Page637-640(2010.08)	上方関節唇のPeel back phenomenonは動態のvariantの可能性がある	岩堀裕介	整形外科
98	肩関節 34巻3号 Page891-894(2010.08)	投球による腋窩神経障害の発生状況	岩堀裕介	整形外科
99	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻5号 Page1003-1004(2010.09)	Enthesisの再構築を加えた膝蓋腱再建術	本庄宏司	整形外科
100	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻5号 Page1085-1086(2010.09)	MIPO法を用いて治療した骨形成不全症に伴った小児大腿骨骨幹部骨折の1例	高田琢也	整形外科

101	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻5号 Page1121-1122(2010.09)	ラグビーにて受傷した胸鎖関節後方脱臼の1例	梶田幸宏	整形外科
102	Hip Joint 36巻 Page259-263(2010.10)	骨移植と第3世代セメント手技の人工股関節全置換術における股臼側X線学的成績	大塚博巳	整形外科
103	Hip Joint 36巻 Page484-485(2010.10)	人工股関節全置換術後VTEに対する各種予防薬の効果Dダイマー値への影響	廣瀬士朗	整形外科
104	臨床スポーツ医学 27巻臨増 Page138-151(2010.11)	【競技スポーツ帯同時に役立つ外傷初期治療ガイド】頻発するスポーツ外傷に対する処置・治療の実際】スポーツ外傷の疾患別処置の実際 肘関節・前腕部	岩堀裕介	整形外科
105	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻6号 Page1299-1300(2010.11)	長期ビスフォスフォネート1日1回製剤内服患者における週1回製剤変更後嗜好性調査	梶田幸宏	整形外科
106	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻6号 Page1363-1364(2010.11)	骨付き膝蓋腱(BTB)を用いた足関節外側靭帯再建術 Single slit tunnel法とDouble slit tunnel法の比較	大須賀友晃	整形外科
107	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻6号 Page1385-1386(2010.11)	投球による上腕骨内上顆下端障害に対するLIPUSの治療経験	梶田幸宏	整形外科
108	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53巻6号 Page1407-1408(2010.11)	橈骨遠位端骨折プレート固定後の屈筋腱障害	山崎豊弘	整形外科
109	関節外科 29巻11号 Page1260-1272(2010.11)	【外傷性肩関節脱臼の治療戦略】外傷性肩関節前方不安定症に対するDAFF変法	岩堀裕介	整形外科
110	整形外科 61巻13号 Page1361-1366(2010.12)	FDP D-dimerによるスクリーニング法を用いた脊椎手術253例における静脈血栓塞栓症発生率	森将恒	整形外科
111	日本人工関節学会誌 40巻 Page410-411(2010.12)	HAコーティングカップとポリッシュ・テーパーステムを用いたハイブリッド人工股関節置換術の短期成績	廣瀬士朗	整形外科
112	東海関節 2巻 Page17-19(2010.12)	人工股関節置換術後VTEに対する予防薬の効果とDダイマー値への影響	廣瀬士朗	整形外科
113	日本肘関節学会雑誌 17巻2号 Page28-31(2010.12)	上腕骨小頭部軟骨骨炎に対するLIPUSによる治療成績	梶田幸宏	整形外科
114	整形外科 62巻1号 Page33-37(2011.01)	非結核性抗酸菌による感染性腹部大動脈瘤と感染性脊椎炎を合併した1例	稲森晋平	整形外科
115	整形・災害外科 54巻3号 Page276-277(2011.03)	整形外科・手術私のポイント 股臼側におけるimpaction bone grafting法のポイント	大塚博巳	整形外科
116	Int J STD AIDS.	Disseminated mucocutaneous herpes simplex virus infection in an immunocompetent woman.	Watanabe D	皮膚科
117	Acta Derm Venereol.	ALK-positive primary systemic anaplastic large cell lymphoma with extensive cutaneous manifestation.	Ando K	皮膚科
118	J Am Acad Dermatol.	Infliximab treatment of severe genital ulcers associated with Behcet disease.	Kasugai C	皮膚科
119	Virology	Nuclear localization of Merkel cell polyomavirus large T antigen in Merkel cell carcinoma.	Nakamura T	皮膚科
120	J Ocul Pharmacol Ther	Effect of infliximab on tumor necrosis factor- α -induced alterations in retinal microvascular endothelial cells and retinal pigment epithelial cells.	Li H	皮膚科
121	Arch Virol	Apoptosis induction after herpes simplex virus infection differs according to cell type in vivo.	Esaki S	皮膚科
122	J Dermatol Sci	CD109 expression levels in malignant melanoma.	Ohshima Y	皮膚科
123	PLoS One	c-RET molecule in malignant melanoma from oncogenic RET-carrying transgenic mice and human cell line.	Ohshima Y	皮膚科
124	J Dermatol Sci	Medical application of herpes simplex virus.	Watanabe D	皮膚科
125	Int J STD AIDS.	Herpes zoster of the nipple: rapid DNA-based diagnosis by the loop-mediated isothermal amplification method.	Watanabe D	皮膚科
126	Laser Therapy	Clinical responses to topical photodynamic therapy of actinic keratosis, Bowen's diseases and non-oncological diseases in Japan.	Matsumoto Y	皮膚科
127	高齢者の皮膚トラブルFAQ:宮地良樹・北徹監修(診断と治療社)	第3章 皮膚疾患-C 感染性皮膚疾患 1. 高齢者の帯状疱疹で注意すべきことは?	渡辺大輔	皮膚科
128	高齢者の皮膚トラブルFAQ:宮地良樹・北徹監修(診断と治療社)	第4章 Mini lecture-知っておくべき高齢者皮膚病 8. 硬化性萎縮性苔癬	渡辺大輔	皮膚科
129	皮膚科サブスペシャリティシリーズ1冊でわかる皮膚がん:斎田俊明編(文光堂)	各論1. 上皮性皮膚悪性腫瘍 5. 乳房外Paget病 コラム Photodynamic diagnosis and therapy.	渡辺大輔	皮膚科
130	皮膚科の臨床	第2章 掌跖多汗症 3) ボツリヌス毒素注射	伊東慶子	皮膚科
131	Visual Dermatology(秀潤社)	CPC:落葉状天疱瘡	竹尾友宏	皮膚科
132	日臨皮誌	帯状疱疹治療のエビデンス	渡辺大輔	皮膚科
133	Monthly Book Derma 増刊号 小児皮膚診療パーフェクトガイド	小児の単純ヘルペスウイルス感染症	渡辺大輔	皮膚科
134	皮膚病診療	光線力学的療法(PDT)により軽快した難治性下腿潰瘍	柳原一葉	皮膚科
135	Skin Cancer	日光角化症に対する光線力学的療法の治療指針の作成に向けて	中野章希	皮膚科
136	西日本皮膚	掻痒性皮膚疾患に対するオロパタジン塩酸塩の有用性の検討 -VASの減少率からみたかゆみコントロールの早期	渡辺大輔	皮膚科
137	愛知医科大学加齢医学研究所紀要	高齢者に発症したLangerhans cell histiocytosisの1例	安藤一葉	皮膚科
138	発汗学	過去5年間に於ける愛知医科大学皮膚科を受診した特発性後天性全身性無汗症患者の治療経過について	大嶋雄一郎	皮膚科

139	臨床皮膚科	表皮向性転移性悪性黒色腫(epidermotropic metastatic malignant melanoma:EMMM)の1例	榎原江里子	皮膚科
140	皮膚科の臨床	単純ヘルペスウイルス感染症の最前線 正しい診断、治療のために	渡辺大輔	皮膚科
141	日本小児皮膚科学会雑誌	サイトメガロウイルス(CMV)の再活性化を伴ったDrug Induced Hypersensitivity Syndrome(DIHS)の小児例	石田奈津子	皮膚科
142	Int J Antimicrob Agents	Penetration of doripenem into prostatic tissue following intravenous administration in prostatectomy patients.	Yamada Y	泌尿器科
143	Oncology Rep	Potential of molecular targeted therapy of HER-2 and COX-2 for invasive transitional cell carcinoma of the urinary bladder.	Naruse K	泌尿器科
144	Exp Ther Med	Investigation of risk factors for prostate cancer patients with bone metastasis based on clinical date.	Yamada Y.	泌尿器科
145	Int J Nephrol Ulrol.	Microdissection Tese(MD-TESE) does not improve sperm retrieval rate but contributes to favorable pregnancy rate in non-obstructive azoospermic (NOV) patients.	Hibi H	泌尿器科
146	Placenta	Placental oxidative DNA damage and its repair in preeclamptic women with fetal growth restriction	Fujimaki A	産科婦人科
147	J Aichi Med Univ Assoc	Endothelial function and oxidative stress in women with endometriosis	Kanyama A	産科婦人科
148	J Aichi Med Univ Assoc	Role of hyaluronan synthase, hyaluronan and serum-derived hyaluronan-associated protein (SHAP)-hyaluronan complex in endometrial cancer	Kanyama K	産科婦人科
149	糖尿病と妊娠	妊娠とインスリン抵抗性 インスリン分泌からみた正常群、1ポイント異常群、妊娠糖尿病について	篠原康一	産科婦人科
150	日本産科婦人科学会新潟地方部会誌	不妊症患者における子宮卵管造影施行後の妊娠に関する検討	松下 宏	産科婦人科
151	東海産科婦人科学会雑誌	胎児心臓腫瘍による心原性胎児水腫の1例	木下伸吾	産科婦人科
152	東海産科婦人科学会雑誌	術後18年目に縦隔及び肺転移を来した子宮平滑筋腫瘍の	大林幸彦	産科婦人科
153	J Ocul Pharmacol Ther.	Effect of infliximab on tumor necrosis factor- α -induced alterations in retinal microvascular endothelial cells and retinal pigment epithelial cells.	Zako M.	眼科
154	Lasers Surg Med.	Increase in matrix metalloproteinase-2 level in the chicken retina after laser photocoagulation.	Takeyama M.	眼科
155	Orbit.	Tip for preventing chemosis after swinging eyelid	Kakizaki H.	眼科
156	Open Ophthalmol J.	Frontalis suspension surgery in upper eyelid	Takahashi Y.	眼科
157	Open Ophthalmol J.	Oculoplastic.	Kakizaki H.	眼科
158	Clin Experiment Ophthalmol.	Whitnall ligament anatomy revisited.	Kakizaki H.	眼科
159	Clin Experiment Ophthalmol.	Steroids in thyroid eye disease.	Kakizaki H.	眼科
160	Ophthal Plast Reconstr Surg.	Müller's muscle tendon: microscopic anatomy in Asians.	Kakizaki H.	眼科
161	Ophthal Plast Reconstr Surg.	Lacrimal caruncle: continuation to the lower eyelid retractors.	Kakizaki H.	眼科
162	Am J Ophthalmol.	The anatomical relationships between the lower eyelid retractors and the lacrimal caruncle: a microscopic study.	Kakizaki H.	眼科
163	Ophthal Plast Reconstr Surg.	Anatomy of the superior border of the lateral orbital wall: surgical implications in deep lateral orbital wall decompression surgery.	Kakizaki H.	眼科
164	Am J Ophthalmol.	The posterior limb in the medial canthal tendon in asians: does it exist?	Kakizaki H.	眼科
165	Ophthal Plast Reconstr Surg.	Lateral tarsal fixation in Caucasians.	Kakizaki H.	眼科
166	Ophthal Plast Reconstr Surg.	The ethmoidal sinus roof: anatomical relationships with the intracranial cavity.	Takahashi Y.	眼科
167	Ophthalmology.	Müller's muscle: a component of the peribulbar smooth muscle network.	Kakizaki H.	眼科
168	Clin Experiment Ophthalmol.	Insertion of the levator aponeurosis and Müller's muscle on the tarsus: a cadaveric study in Caucasians.	Kakizaki H.	眼科
169	Ophthal Plast Reconstr Surg.	Orbital septum attachment sites on the levator aponeurosis in Asians and whites.	Kakizaki H.	眼科
170	Ophthal Plast Reconstr Surg.	Bilateral orbital compartment syndrome and blindness after cerebral aneurysm repair surgery.	Takahashi Y.	眼科
171	Acta Otolaryngol 130:1324-1328, 2010.	3D-FLAIR MRI findings in patients with low-tone sudden deafness.	Tanigawa T	耳鼻咽喉科
172	Progress in Medicine 30:2663-2673, 2010	スギ・ヒノキ花粉症患者への初期療法の検討 - pranlukast(オノン®)投与による検討-	稲川俊太郎	耳鼻咽喉科
173	喉頭 22:2 139-143, 2010	甲状腺を用いて声門再建を行った喉頭垂直部分切除術の	小川徹也	耳鼻咽喉科
174	耳鼻と臨床 56:163-168, 2010	導入化学療法後に機能温存手術を施行した舌根癌症例	小川徹也	耳鼻咽喉科
175	未病と抗老化 19:1 109-112, 2010	高齢者の涙道閉塞に対する低侵襲手術(鼻内視鏡下涙囊鼻腔吻合術)に関する研究	谷川 徹	耳鼻咽喉科
176	JOHNS 26:3 332-333, 2010	特集 耳鼻咽喉・頭頸部画像アトラス 耳・側頭骨「耳硬	植田広海	耳鼻咽喉科
177	JOHNS 26:5 807-808, 2010	私が愛用する手術器具77「アブミ骨手術の器具」	植田広海	耳鼻咽喉科
178	JOHNS 26:7:999-1001, 2010	特集 伝音難聴の耳よりな話「Stiffness curveとmass curveの成因」	岸本真由子	耳鼻咽喉科
179	耳鼻咽喉科臨床 103:10:891-893, 2010	中耳真珠腫の手術法 -いかに個別治療を選択するか-	植田広海	耳鼻咽喉科
180	JOHNS 26:9:1342-1343, 2010	お母さんへの回答マニュアル耳鼻咽喉科Q&A2010「飛行機に乗ると耳が塞がったようになり、痛くなる場合があります。どうしてですか？予防や治す方法はあるのでしょうか？」	植田広海	耳鼻咽喉科
181	現代医学 58:1:57-63, 2010	弛緩部型真珠腫の手術法 -症例に則した術式の選択-	植田広海	耳鼻咽喉科

182	Experim Therap Med. 1:93-96, 2010	Human MLH1 status can potentially predict cisplatin sensitivity but not microsatellite instability in head and neck squamous cell carcinoma cells	小川徹也	耳鼻咽喉科
183	頭頸部外科. 20: 201-206, 2011	術前診断が上皮内癌であった鼻腔扁平上皮癌の1症例	小川徹也	耳鼻咽喉科
184	JOHNS 27:2 201-204, 2011	頸部郭清術の新しい考え方 超選択的頸部郭清術	小川徹也	耳鼻咽喉科
185	現代医学 58:1 23-28, 2010	抗癌剤治療の進歩 頭頸部癌における導入化学療法	小川徹也	耳鼻咽喉科
186	Acta Otolaryngol 130:17-24,	Effects of MRI contrast agents on vestibular end organs	Tanaka H	耳鼻咽喉科
187	脈管専門医のための臨床脈管	放射線被曝	石口恒男	放射線科
188	映像情報Medical 増刊号	光造形法による大動脈モデルの精度検討と応用	石口恒男	放射線科
189	クリニシアン	「CTの変遷と将来への期待」-CTの最新技術と課題	石口恒男	放射線科
190	Drugs R D	Safety of Gadoterate Meglumine (Gd-DOTA) as a Contrast Agent for Magnetic Resonance Imaging: Results of a Post-Marketing Surveillance Study in Japan	石口恒男	放射線科
191	J Vasc Interv Radiol	Phase I/II multiinstitutional study of uterine artery embolization with gelatin sponge for symptomatic uterine leiomyomata: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group study	石口恒男	放射線科
192	日本腹部救急医学会雑誌	切除不能な骨盤内悪性腫瘍からの難治性出血に対する動脈塞栓術	石口恒男	放射線科
193	麻酔科学レビュー-2010 -最新主要文献集- 120-124,2010	バランス麻酔	小松 徹	麻酔科
194	麻酔 59(6):686-690,2010	超音波ガイド下閉鎖神経ブロックの有用性と効果発現・持続時間の検討	藤原 祥裕	麻酔科
195	Clin Exp Nephrol 14(3):205-212,2010	Enhanced expression of naofen in kidney of streptozotocin-induced diabetic rats: possible correlation to apoptosis of tubular epithelial cells	Y. Sato	麻酔科
196	日本臨床麻酔学会誌 30(7):952-958,2010	神経ブロック 超音波ガイドの現状と今後の領域 腰部、仙骨領域に対する超音波ガイド下神経ブロックの現状と今後 -腰神経叢ブロックおよび傍仙骨ブロックの、神経刺激単独法と超音波ガイド・神経刺激併用法の比較-	原戸 美佐子	麻酔科
197	ペインクリニック 31(10):1295-1300,2010	[ペインクリニックと抗血栓療法との基礎と臨床 抗血栓療法を受けている患者に安全に神経ブロックを行うために]抗血栓療法を受けている患者に対する末梢神経ブロックの実際	藤原 祥裕	麻酔科
198	麻酔 60(1):111-119,2011	末梢神経ブロックに関連する合併症報告	橋本 篤	麻酔科
199	日本運動器疼痛学会誌 3(1):21-27,2011	超音波ガイド下神経ブロック-慢性疼痛治療への応用-	藤原 祥裕	麻酔科
200	熱傷	広範囲熱傷後癒痕瘻へ胃瘻造設術を施行した1例	松原真依子	形成外科
201	日本形成外科学会誌	グリア細胞を含むprimary cutaneous meningiomaの1例	西堀真依	形成外科
202	熱傷	凍結保存同種皮膚と自家培養表皮の移植により救命した小児広範囲熱傷の1例	増田洋祐	形成外科
203	愛知医科大学医学会雑誌	ケロイド由来線維芽細胞における炎症性タンパク質とシグナルタンパク質の発現検討	小田真喜子	形成外科
204	Shock 2010 Nov;34(5):461-6	Apheresis of activated leukocytes with an immobilized polyr	熊谷常康	救命救急科
205	現代医学 第58巻第2号(2010年12月)	最近の救急医療の話題・課題	中川 隆	救命救急科
206	レジデント Vol.4 No.1 2011/1	皮膚軟部組織感染症	梶田裕加	救命救急科
207	臨床理学療法研究2010:27,81-84	Modified Trunk Rotationテストの臨床的有用性の検討 -広背筋伸張性の指標として-	船橋由布	リハビリテーション部
208	急性期呼吸理学療法 85-94 pp	フィジカルイグザミネーション	岸川典明	リハビリテーション部
209	理学療法 2011:28(2),342-346	気管吸引のための評価	岸川典明	リハビリテーション部
210	愛知県理学療法学会誌 第22巻 第1号2010年6月	多臓器不全に伴う高齢廃用症候群患者の理学療法経験 -カリニ肺炎を契機として断続的に活動が低下した1例-	三科ひろみ	リハビリテーション部
211	愛知県理学療法学会誌 第22巻 第1号2010年6月	股関節内旋可動域が投球動作における骨盤回旋運動に及ぼす影響	尾関圭子	リハビリテーション部
212	日本公衆誌	運転免許保有者の居眠り運転に関する要因についての検討	塩見利明	睡眠科
213	Acta Cytol	An aspiration material preparation system: application of a new liquid-based cytology technique for fine-needle aspiration of the breast.	横井豊治	病院病理部
214	Clin Cancer res	Immunohistochemical detection of EGFR mutation using mutation-specific antibodies in lung cancer.	北村淳子	病院病理部
215	日本臨床細胞学会雑誌	非腫瘍性肺疾患に見られる異型上皮細胞	横井豊治	病院病理部
216	日本胸部臨床	造血肝細胞移植に関わる呼吸器合併症の病理	横井豊治	病院病理部
217	日本病理学会会誌	悪性リンパ腫の診断 初めの一步	高橋恵美子	病院病理部
218	病理と臨床	主な成熟T-NK細胞リンパ腫、および芽球型形質細胞様樹状細胞腫瘍 NK細胞リンパ腫および小児EBV関連T細胞リンパ増殖性疾患	高橋恵美子	病院病理部
219	日本病理学会会誌	「悪性リンパ腫」日常診断において知っておきたい新たな疾患概念 若年者における節外性NK/T細胞リンパ腫、侵襲性NK細胞白血病、CAEBV由来のNK細胞リンパ腫/白血病の関連	高橋恵美子	病院病理部
220	血液・腫瘍科	T/NK細胞腫瘍とEpstein-Barr virus(EBV)	高橋恵美子	病院病理部
221	Vox Sang 2010.9 99巻 P278-93	Haemovigilance for the optimal use of blood products in the hospital.	高本 滋	輸血部

222	日本輸血細胞治療学会誌 2010.12 (1881-3011) 56巻6号 P740	院内血液製剤の適正な製造と使用について 洗浄血小板 (会議録)	高本 滋	輸血部
223	外科治療 2011.03 104巻 P226	輸血の副作用とその対策	高本 滋	輸血部
224	Journal of Anesthesia	Low-dose gabapentin as useful adjuvant to opioids for neur	新井健一	学際的痛みセンター
225	Biotherapy 2010.11 24巻 P474	【脳腫瘍のバイオセラピー】 EGFRvIIIに対するT細胞免疫療法(解説/特集/抄録あり)	吉川 和宏	細胞治療センター
226	Cancer Science 2010.12 101巻 P2518	Retrovirally engineered T-cell-based immunotherapy targeting type-III variant epidermal growth factor receptor, a glioma-associated antigen	吉川 和宏	細胞治療センター
227	BioMedCentral Neurology 2010.10 8巻 P112	Identification of novel biomarker candidates by proteomic analysis of cerebrospinal fluid from patients with moyamoya disease using SELDI-TOF-MS.	吉川 和宏	細胞治療センター
228	日本口腔科学会雑誌 2011.01 60巻 P151	当科症例における自己腫瘍を用いた活性化自己リンパ球移入療法の検討(会議録)	吉川 和宏	細胞治療センター
229	Oncol Reports (Epub) 2011.03	Clinicopathological significance of carbonic anhydrase 9, glucose transporter-1, Ki-67 and p53 expression in oral squamous cell carcinoma.	吉川 和宏	細胞治療センター

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 野浪敏明
管理担当者氏名	医事課 中條孝弘、病院管理課 畑田真宏、地域医療連携課 竹崎武、 薬剤部 長谷川高明、医療安全管理室 高安正和、感染制御部 三鴨廣繁、 臨床工学部 道勇学

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術 記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線 写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間 中の診療経過の要約及び入院治療計画書	病院事務部 各科外来 薬剤部 中央カルテ室	病歴資料については、一患者一番号 でカルテと一体になっている。外来分 は各科外来、入院分は中央カルテ室 で保管している。
病院の 管理 及び 運営 に関 する 諸 記 録	従業者を明らかにする帳簿	病院管理課
	高度医療の提供の実績	医事課
	高度医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
	高度医療の研修の実績	病院管理課
	閲覧実績	医療情報管理課
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 医療安全課
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
	院内感染のための委員会の開催状況	感染制御部	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	感染制御部	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄にはこの記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 生田芳文
閲覧担当者氏名	医事課長 中條孝弘、病院管理課長 畑田真宏
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は医療情報管理課中央カルテ閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	17,479人
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,249人
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,007人
	D : 初診の患者の数	45,293人

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無																				
<p>・指針の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>安全管理のための基本的な考え方</td> <td>6</td> <td>患者相談窓口の設置</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>安全管理の体制確保のための委員会</td> <td>7</td> <td>医療事故発生時の対応方法等</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>医療安全管理室の設置</td> <td>8</td> <td>安全管理のための職員研修</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>医療安全管理者の設置</td> <td>9</td> <td>患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>リスクマネージャーの設置</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1	安全管理のための基本的な考え方	6	患者相談窓口の設置	2	安全管理の体制確保のための委員会	7	医療事故発生時の対応方法等	3	医療安全管理室の設置	8	安全管理のための職員研修	4	医療安全管理者の設置	9	患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針	5	リスクマネージャーの設置		
1	安全管理のための基本的な考え方	6	患者相談窓口の設置																		
2	安全管理の体制確保のための委員会	7	医療事故発生時の対応方法等																		
3	医療安全管理室の設置	8	安全管理のための職員研修																		
4	医療安全管理者の設置	9	患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針																		
5	リスクマネージャーの設置																				
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																				
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。 2 医療の安全管理の情報交換に関すること。 3 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。 4 その他医療安全管理に関すること。 																					
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 22 回																				
<p>・研修の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全講演会「院内症例」(2回) 2 AEDを使用した心肺蘇生法(12回) 3 深部静脈血栓症・肺血栓症の予防と装置の使用法(1回) 4 気管切開チューブの概要と安全な使用法(1回) 5 エコーを使用したCVカテーテル挿入法(1回) 6 呼吸療法に関する講習会(1回) 7 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」(1回) 8 看護職員を対象とした各種医療安全に関わる研修(3回) 																					
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況																					
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新規採用職員に対する院内ルールの周知と教育方法の徹底 2 手術時のタイムアウトの徹底(麻酔) 3 AMUSE注射オーダシステムの変更 4 麻薬(内服薬・外用薬)管理方法の変更 <p>その他、インシデントなど対策各種</p>																					
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(6 名) <input type="checkbox"/> 無																				
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(5 名) <input type="checkbox"/> 無																				
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無																				
<p>・所属職員 専任(6)名 兼任(5)名</p> <p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。 2 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。 3 医療事故発生時の対応に関すること。 4 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。 5 医療安全管理に関する院内の連絡調整 6 その他医療安全管理に関する業務 																					
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無																				

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・活動の主な内容 ・医療安全のための医薬品適正使用についての講義 ・麻薬・向精神薬および毒薬の適切な保管管理	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用と購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬および服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に関わる情報収集・管理・提供に関する事項 6. 在宅患者への医薬品使用に関する事項 7. 他施設との連携に関する事項 8. 医薬品安全使用のための業務手順書に関する研修の実施 ・手順書に基づく業務の実施状況 1. 医薬品の採用と購入に関する事項 ①1回/月、薬事委員会を開催した。 ②薬事委員会の規約を改正し、看護部と事務部の代表を委員に加えた。 ③名称類似による間違いを防止するために、採用薬を一部変更した。 ノルバデックス錠(ノルバスク錠と類似)→タスオミン錠 ④インスリン製剤の病棟保管は、ヒューマリンRのみとした。 ⑤ジェネリック医薬品の採用を拡大した。 ⑥制吐剤5HT3注射薬製剤を一品目に統一した。 2. 医薬品の管理に関する事項 ①外来化学療法センターを設置し、外来化学療法は、レジメン審査委員会で審査し、承認されたレジメンを施行している。 ②入院化学療法についても、レジメン登録し、医師、薬剤師、看護師などのガン化学療法に関わる医療者での情報共有を図った。 ③入院化学療法では、病棟担当薬剤師がレジメンに基づいたがん化学療法ワークシートを作成し患者と面談し、投与規制項目を確認し安全に施工されるようにした。 ④抗がん剤の調製は、土日を含み毎日、すべて安全キャビネットを用い薬剤師が行っている。 ⑤薬品管理チェックリストを作成し、定期的に、病院全科の医薬品の品質と保管状況・安全情報配布状況を巡回指導した。 ⑥毒薬・向精神薬取扱いマニュアルを改訂し、毒薬と向精神薬第1種と2種については、施用後の空アンプル確認を行った。 ⑦病棟における麻薬の適正管理のために、看護師と薬剤師が共有できる麻薬管理簿を作成し運用した。 ⑧手術室にサテライトファーマシーを設置し、薬剤師により手術 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 ①調剤は、処方せんに基づき調剤内規および調剤業務の手順に基づいて行った。 ②持参薬の確認は、薬剤師・医師で行い、医師の指示のもとに積極的に使用している。 ③注射薬は、個人別に使用毎にセットし、病棟担当者が監査し払い出している。 ④疑義紹介は、必要時、処方した医師に行っている。 ⑤インシデント報告:インシデント報告されたもののうち、重要なものは、改善策を講じた。 (ベンゾジアゼピン系薬剤の相互作用など) 4. 患者に対する与薬および服薬指導に関する事項 ①配薬:患者に処方される投薬は、内服薬管理マニュアルを作成し、臨時処方薬も含め、病棟の配薬車に薬剤師が配薬し、看護師が予薬し二重にチェックしている。 ②副作用モニター ③投与前確認:抗ガン剤投与前の患者のバイタルや検査値など投与規制因子を病棟薬剤師がチェックしている。 ④手術前など:手術前投与中止薬の確認を病棟薬剤師と手術室専任薬剤師でチェックしている。 ⑤持参薬の投薬:持参薬については、医師、薬剤師がチェックし、医師の指示のもと必要な薬剤師は使用している。 5. 医薬品の安全使用に関わる情報収集・管理・提供に関する事項	

①情報の提供:院内で収集した情報や、厚生省などから収集した情報は、院内オーダリングシステムAMUSEの医薬品情報に入れてオーダリングシステムを使用する医療従事者に提供している。また、至急に伝達する必要がある場合には、院内メールシステムで、医師、看護師、薬剤師等の医療従事者に提供している。また、重要度の高いものは、オーダリングシステムの初期画面に Drug Messageに、「使用注意薬品です。ご注意ください」と提示し、目に触れやすい形式で提供している。

②情報の収集:(1)①医療用医薬品添付文書(以下、添付文書)、医薬品インタビューフォーム、医薬品製品情報概要、使用上の注意の解説、医薬品安全対策情報などは、JUS.D.I.から情報を収集している。JUS.D.I.の情報の更新は、週1回行っている。

②緊急性を要する情報として、緊急安全性情報、不良品の回収に関する情報などは、製薬企業の医薬情報担当者(MR)や学術情報部など製薬企業、卸販売業などから迅速に情報を取り入れられるように常に連携をとっている。

③学内LANをととして臨床薬学領域の代表的な学術雑誌(New England Journal of Medicine、The Lancet、医療薬学、薬理と治療など)は常に閲覧できるようにになっていて、必要時、必要な目的に合わせて情報を検索・収集し、内容を評価して選択し、資料として加工し、相手に合わせて提供している。

④その他、医薬品適正使用のための情報収集に必要な雑誌、書籍は、毎年更新し取り揃えている。

収集した医薬品情報は、医薬品情報管理室の薬剤師から、メールで配信している。また、書面などは、ファイルし、部員室と、医薬品情報管理室の決まった場所に置いている。(2)院内で発生した重大な副作用の情報は、「医薬品安全使用のための業務に関する手順書(医薬品業務手順書)」に定められているように、医療安全管理室から医薬品安全管理者を通して薬剤部に連絡される。また、医薬品情報管理室が入手した医薬品安全情報は、医療安全管理室をはじめ院内にメール等で配信している。

③副作用報告:2011年 0件把握している。

6. 在宅患者への医薬品使用に関する事項

7. 他施設との連携に関する事項:地域中核病院として、医薬品適正使用の講演会を地域病院の主に薬剤師を対象に開催した。

8. 医薬品安全使用のための業務手順書に関する研修の実施:新任医師および薬剤師を対象に実施した。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・医薬品に係る情報の収集の整備

有 無

・その他の改善のための方策の主な内容

- ゾラデックス注(乳がん用薬)とノピラックス注(抗ウイルス薬)の名称類似による間違いを防止するために、ノピラックスを「ピクロックス注」に変更した(平成18年)
- 外来化学療法室(外来化学療法センターに名称変更)が設置された。外来化学療法はレジメン審査委員会が審査し、承認されたレジメンを施行することとした。
- 医薬品適用使用と看護師業務の軽微化を目的として、21名の薬剤師を増員し、病棟に常駐させた(平成19年)。内服薬のセットを開始した。
- 医薬品の安全使用のための業務手順書およびチェックリストを作成した(平成19年)。
- 持参薬は医療安全の観点から使用しないことに加え、病棟薬剤師が持参薬をチェックすることが決定した(平成19年)。持参薬の確認は、患者の服用歴を調査し、必要な場合には再調剤まで行うこととした。
- 高カリウム濃度製剤「KCL注40 mEq/20 mL」を「KCLキット10 mEq/10 mL」に変更した(平成19年)。
- JUS-DIをオーダリングシステムの医薬品情報に導入した(平成20年)
- 複数規格ある薬剤の採用取消しと小頻度使用医薬品の削減を行っている(薬事委員会、平成20年から実施)。
- 病棟における麻薬の適正管理のために、看護師と薬剤師が共有できる麻薬管理簿を作成した(平成20年)。
- 手術室の医薬品の適正管理を行うために、手術室にサテライトファーマシーを設置した(平成20年)。また、ICUに加えて、NICUおよびICUにも専任薬剤師を配置した。
- 各病棟の注射薬個人払い出しは、病棟で使用される医薬品を確認・把握するために、その病棟担当薬剤師が行うこととした(平成20年)。
- 抗がん剤「タキソテール注」と「タキソール注」の名称が類似することから、「タキソール注」を「ベクリタキセル注」に変更した(平成20年)。
- 静注用免疫グロブリン製剤(ゲノグロブリンH、グロベニン)、ペニロンI)を日赤のポリグロブリン「日赤」に統一した(平成20年)。
- 全病棟での抗がん剤の混注を行うことを目的に、モデルとして消化器外科病棟における抗がん剤の混注業務を外来化学療法センターにおいて開始した(平成20年)。
- 抗がん剤の処方・調剤・与薬のプロセスにおけるエラーを防止するために、レジメンを登録しレジメンを組み入れたクリニカルパスを作成し運用した(平成20年)。
- 手術室での麻酔科医師の業務軽微化のために、手術室サテライトファーマシーにて筋弛緩薬や麻薬の混注業務を開始した(平成21年)。
- がん化学療法を適正に行うにあたり、がんに関する知識の習得を目的として、当院のがん専門医師の講義を25回開催した(平成21年)。
- 血糖降下薬である外ホルモン製剤とコード系造影剤との相互作用およびサリドマイド製剤の医療事故に対応するためのマニュアルを作成した(平成21年)。
- インフルエンザが流行し、休日での救急外来に受診するインフルエンザ感染患者数が多いため、その治療薬であるリレンザの吸入指導に多くの時間が費やされている。救急外来の申請に応じて日曜日及び休日の9:30~20:00まで、薬剤師が吸入指導を行う体制をとった(平成21年)。
- 抗がん剤の血管外漏出に対する的確に、かつ迅速に対応するための「抗がん剤の血管外漏出の対応マニュアル」を作成し外来化学療法センター並びに病棟等に配布した(平成21年)。
- 医薬品適正使用を推進するために最も重要な学問である薬物動態学を理解することを目的に、「薬物相互作用のABC」および「臨床薬物動態学のABC」の総説を愛知県病院薬剤師会雑誌に寄稿し、当院各病棟にも配布した(平成21年)。
- ハイリスク薬の点滴速度の医療過誤を防止するために、重要なハイリスク薬の投与方法に関する一覧表を病棟に配布した(平成21年)
- 全病棟に薬剤師を常駐させ、患者に安全で適正な医療を提供できるチーム医療を推進させた(平成21年)。
- 抗がん剤の人体暴露を防止するために、閉鎖式抗がん剤調製器具を導入した(平成22年)。
- 毒薬・向精神薬管理マニュアルを改訂し、毒薬および向精神薬第1種2種については、服用後の空アンプル確認を薬剤師で行うこととした(平成22年)。
- 麻薬・向精神薬および毒薬の安全管理を目的として、入院調剤室に隣接する部屋で管理することとした(平成22年)。
- 持参薬は、原則しないこととなっていたが、薬剤師による持参薬の確認が、ほぼ全病棟で実施できることから持参薬は使用することとなった(平成22年)。
- 医薬品保管簿をすべて変更し、ハイリスク薬、劇薬などの保管管理を改善した(平成22年)。
- 医療過誤を防止するために、ノルバスク錠と名称が類似するノルバデックスを「タソミン」に切り替えた(平成22年)。
- インスリン製剤の病棟保管はヒューマリンRのみとした(請求伝票に基づく)。他のインスリン製剤は患者毎の入院処方せんで払い出し、患者毎の管理とした(平成22年)。
- 入院および外来患者に対する抗がん薬の調剤は、原則として化学療法センターの調剤室で行うこととした(平成22年)。
- 看護師と協働で、入院患者の内服薬管理マニュアルを作成し、患者が安全に確実に服用できるシステムを構築した(平成22年)。
- 入院患者の抗がん剤調剤のため、安全キャビネットを1台増設し、安全で、かつ適正な抗がん剤調剤を開始した(平成22年)。
- 麻薬の適正保管管理のために金庫を1台増設した(平成22年)。
- ケーンシロップの顔面注射と防止のために、病棟及び外来に本剤の在庫を置かないこととし、薬剤師で調剤し渡すこととした(平成22年)。
- 治療薬の品質保証(28℃保持)のためエアコンを設置した(平成22年)。

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 51 回
・活動の主な内容 医療職員に対する人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ使用に関する安全講習 新規導入機器使用説明会(麻酔器・IABP・人工心肺装置等) 専任技士対象:体外循環技術教育人工臓器セミナー・透析装置メンテナンス講習会・心臓ペースメーカー講習会	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	休日以外の毎日(機種による)
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 人工呼吸器定期点検・使用後点検・使用中点検 蘇生バック使用後点検 麻酔器定期点検・マンスリー点検 人工心肺装置使用前点検 PCPS定期点検 IABP使用後点検 除細動装置定期点検・マンスリー点検 AED・マンスリー点検 放射線治療装置定期点検・日常点検 保育器定期点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 医薬品医療機器情報配信サービスをうけ、関係部署に通知及び改善を促している。	